

川越市 上下水道事業経営戦略

令和2年度～令和11年度

概要版

水道事業
公共下水道事業



時の鐘

川越市上下水道局

目次

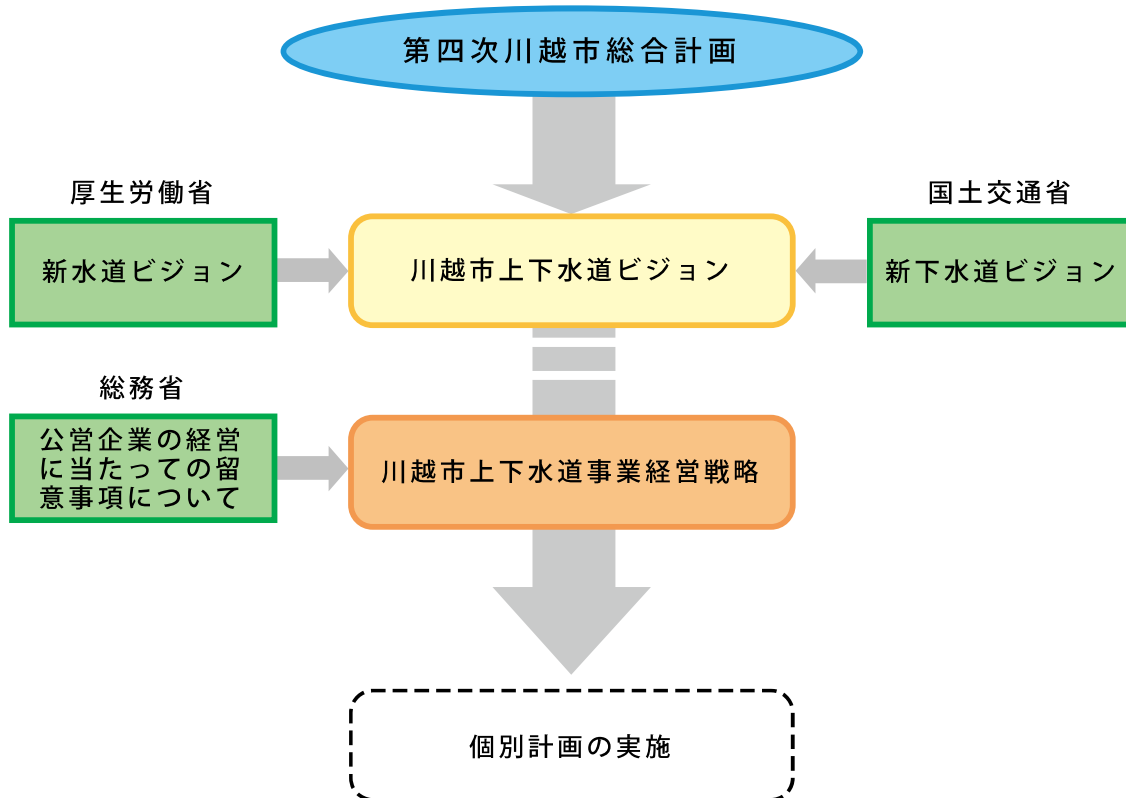
第1章 策定に当たって	1
第2章 事業の現状と課題	2
第3章 将来の事業環境	4
第4章 経営の基本方針	6
第5章 投資・財政計画	8
第6章 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項	12

第1章 策定に当たって

●策定の趣旨

本市の水道事業及び公共下水道事業（以下「下水道事業」という。）の目指すべき方向性を明らかにし、上下水道局として取り組むべき課題に対する施策等を示した「川越市上下水道ビジョン」を平成31年3月に策定しました。同ビジョンに掲げる施策等をより実効性のあるものとするため、中長期的な経営の基本計画である「川越市上下水道事業経営戦略」（以下「経営戦略」という。）を策定するものです。

●経営戦略の位置付け



●計画期間

年度	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11
計画名	第四次川越市総合計画													
	川越市上下水道ビジョン													
	川越市上下水道事業経営戦略													

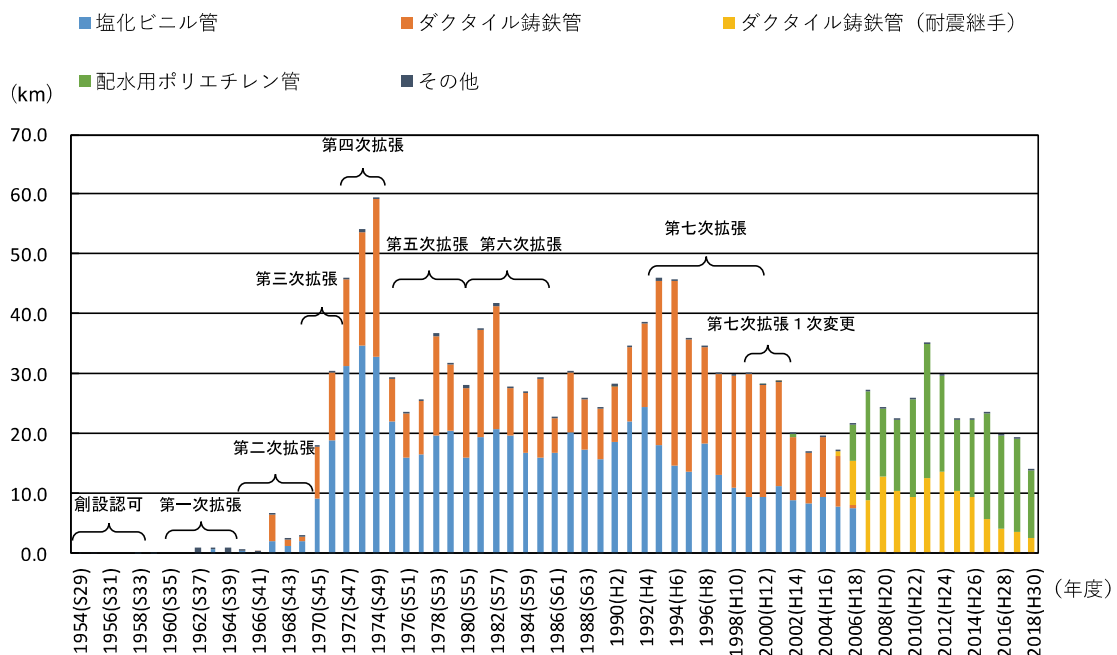
第2章 事業の現状と課題

<水道事業>

本市の水道事業は、昭和26年度に当初認可を受け、昭和29年度に給水を開始しました。現在の普及率は、ほぼ100%に達しています。

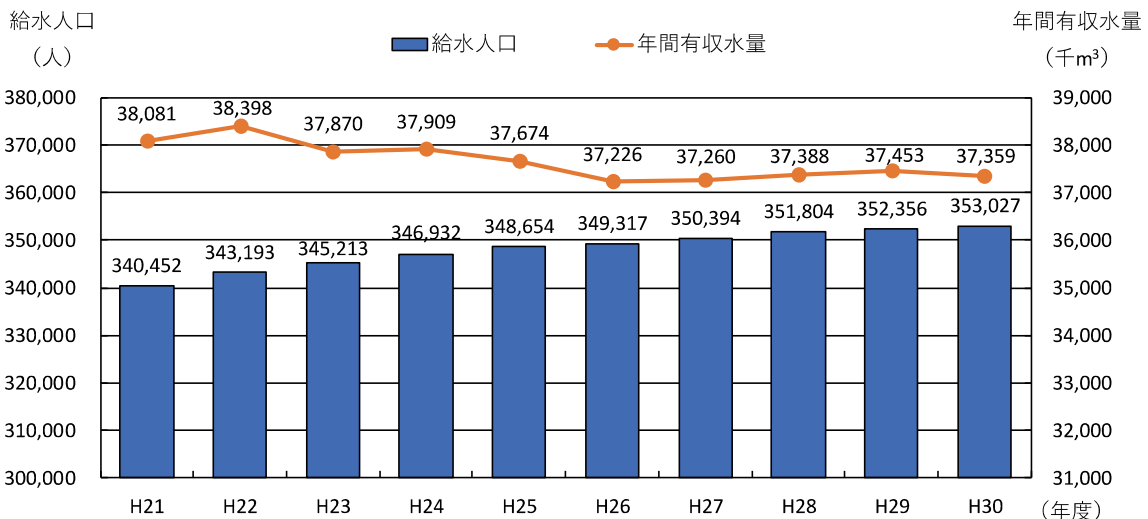
●年度別配水管布設延長

昭和45年度以降の、人口増加に伴って布設した配水管の更新の時期が近づいてきており、今後は更新のペースアップを図る必要があります。



●給水人口及び年間有収水量の推移

給水人口は微増傾向ですが、料金収入に影響する年間有収水量は、ここ数年横ばいとなっています。

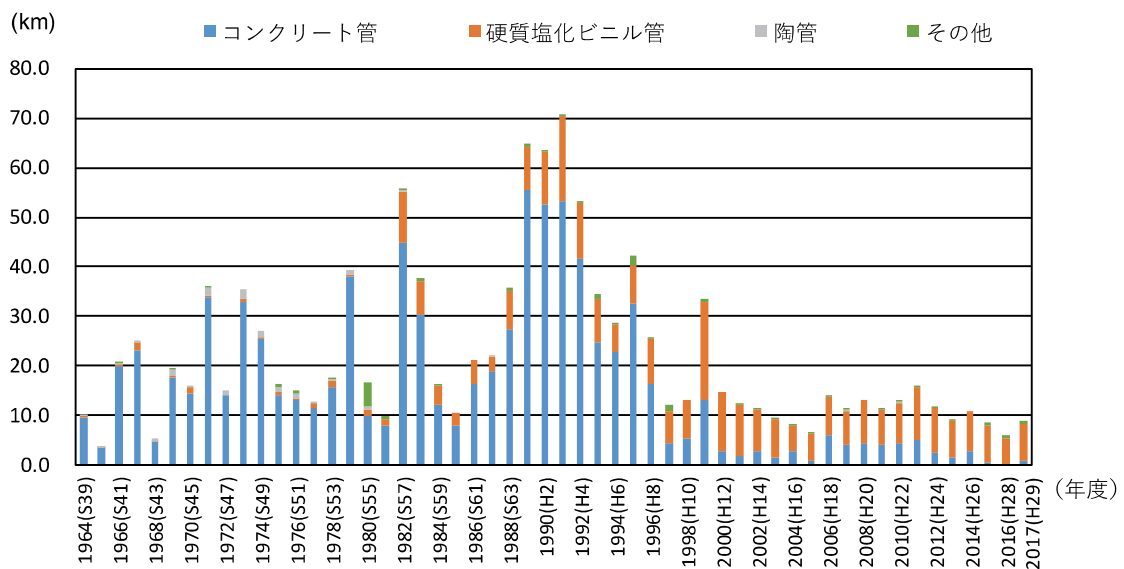


<下水道事業>

本市の下水道事業は、昭和6年度に当初認可を受け、実施しました。現在の人口普及率は86.4%です。

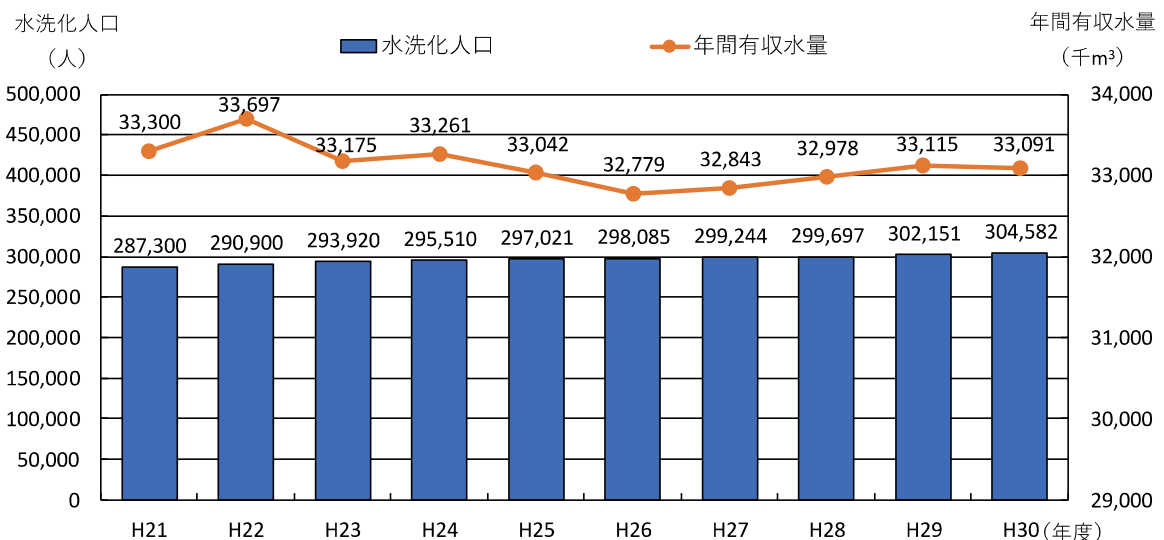
●年度別下水道管布設延長

昭和後期から平成初期にかけて下水道管を大規模に布設していることから、近い将来、大量更新の時期を迎えることになります。



●水洗化人口及び年間有収水量の推移

水洗化人口は微増傾向ですが、年間有収水量は、平成21年度と比較すると約20万m³減少しています。

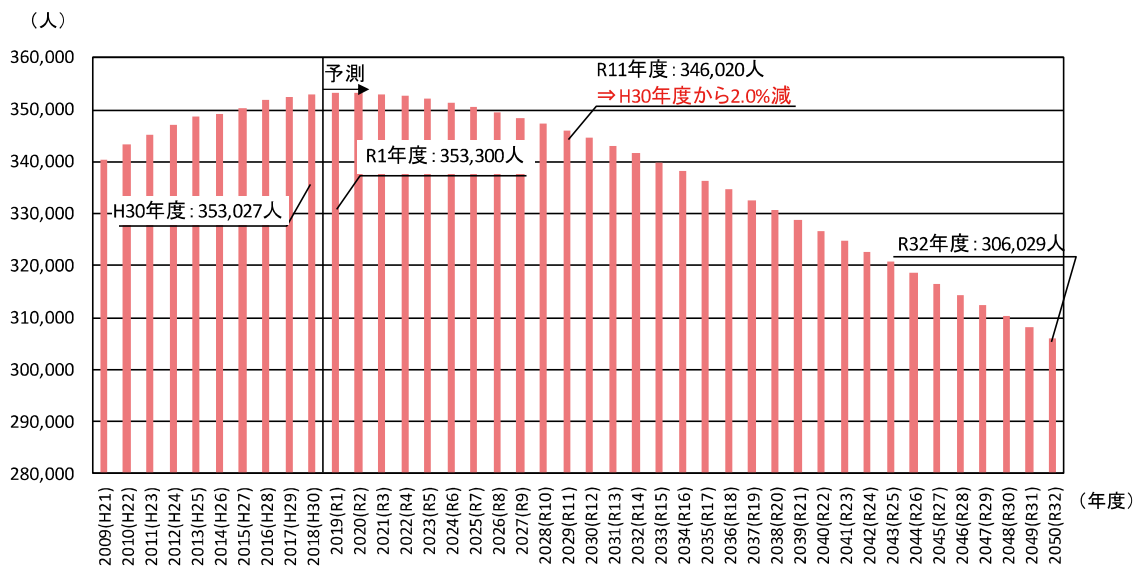


第3章 将来の事業環境

<水道事業>

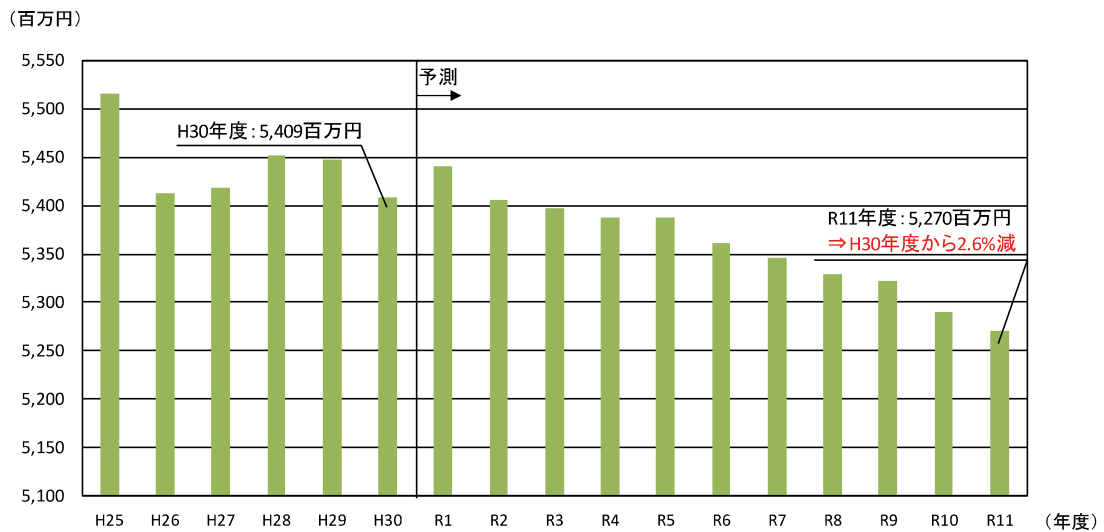
●給水人口の予測

本市の給水人口は、微増傾向にあります。しかし、少子化に伴って次第に減少し、計画最終年度である令和11年度には346,020人となる見通しです。



●料金収入の予測

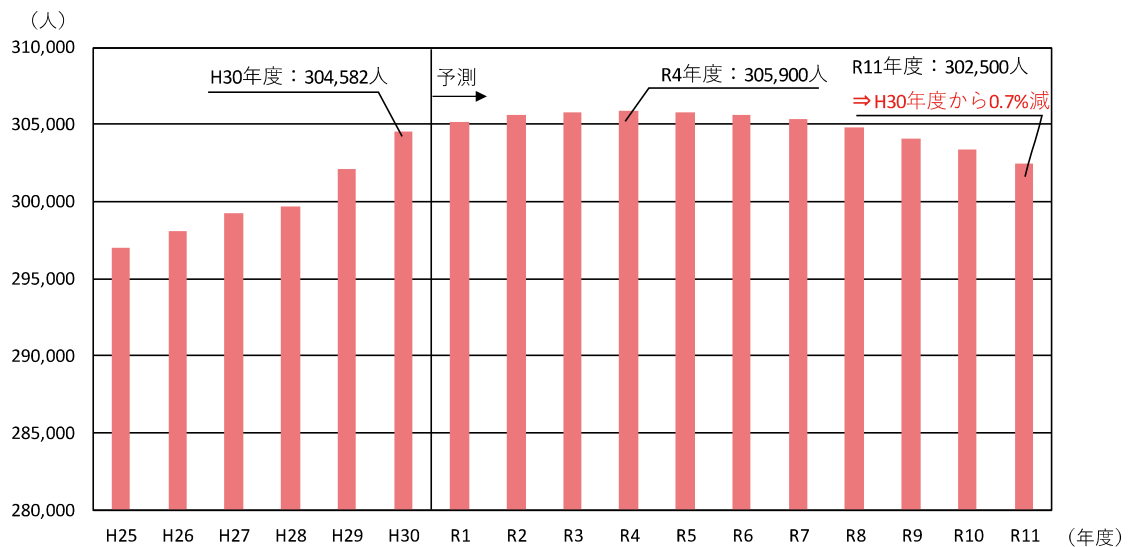
水需要が減少する見込みのため、計画期間内の料金収入も緩やかに減少する見通しです。



<下水道事業>

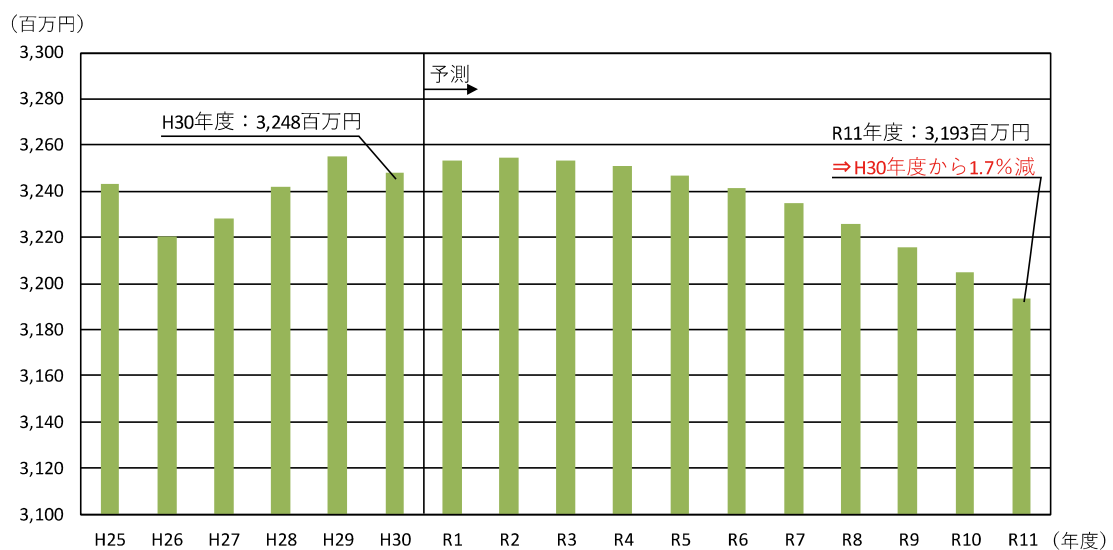
●水洗化人口の予測

今後、新たに整備する区域での水洗化人口の増加がある一方、行政人口が減少に転じる見込みであることから、令和11年度の水洗化人口は302,500人と、わずかに減少する見通しです。



●使用料収入の予測

使用料収入は、有収水量の増減に連動し、平成30年度から令和11年度までに1.7%減少する見通しです。



第4章 経営の基本方針

●上下水道ビジョンと経営戦略

川越市上下水道ビジョンは、「未来へつなぐ うるおいの環(わ) 川越の上下水道」を上下水道事業に係る基本理念として掲げ、長期的に取り組むべき課題や基本施策を示しています。

●投資・財源に関する方向性

本経営戦略は、川越市上下水道ビジョンとの整合を図りつつ、事業を継続していくために必要な投資及び財源に関する基本的な方向性を定めます。

また、これらの方向性ととともに、投資計画及び財政計画を策定するに当たっての目標を示します。

<水道事業>

投資	① 施設の計画的、効率的な更新
	将来にわたって良好な水道サービスを持続的に提供するため、アセットマネジメントに基づいた計画的、効率的な施設の更新を実施します。
	<目標>
	・有収率 (H29年度：94.6%→R10年度：95.0%)
	・管路の更新率 (H29年度：0.98%→R10年度：1.25%)
	② 耐震化のさらなる推進
防災拠点や救急医療施設等への重要施設配水管を優先して整備するなど、基幹施設の耐震化を進めます。	
<目標>	
・重要施設配水管耐震化率 (H29年度：15.8%→R10年度：30.0%)	
・配水管の耐震化率 (H29年度：20.1%→R10年度：32.6%)	
財源	① 企業債の活用、内部留保資金の確保
	世代間負担の公平性を図るため、企業債を適切に活用します。将来的な施設・設備の更新を見据え、必要となる財源の確保に努めます。
	<目標>
	・企業債残高対給水収益比率 200%以内
	・適正な内部留保資金水準の確保 (25億円以上)
	② 適正な水道料金水準の検討
独立採算制の原則に基づき、適正な水道料金水準を検討します。	
<目標>	
・料金回収率 100%以上	
・累積欠損金未発生	

<下水道事業>

投資	① 施設の適切な維持管理
	将来にわたって、良好な下水道サービスを持続的に提供するため、ストックマネジメントに基づいた施設の適切な維持管理を実施します。
	<目標>
	・長寿命化管きょ延長 (H29年度：31.7 km→R10年度：36.7 km)
	・管きょ耐震化率 (H29年度：14.5%→R10年度：22.8%)
	② 不明水対策の推進
不明水の流入状況調査を実施し、原因と対象区域の特定を行うことで、不明水の削減に努めます。	
<目標>	
・有収率の向上 (H29年度：71.3%→R10年度：80.0%)	
財源	① 企業債の活用、内部留保資金の確保
	世代間負担の公平性を図るため、企業債を適切に活用します。将来的な施設・設備の更新を見据え、必要となる財源の確保に努めます。
	<目標>
	・企業債残高対事業規模比率 200%以内
	・適正な内部留保資金水準の確保 (30億円以上)
	② 適正な下水道使用料水準の検討
独立採算制の原則に基づき、適正な下水道使用料水準を検討します。	
<目標>	
・経費回収率 100%以上	
・累積欠損金未発生	

第5章 投資・財政計画

<水道事業>

●投資計画

川越市上下水道ビジョンの目標と整合した投資の目標を設定し、今後10年間の具体的な投資計画を示します。

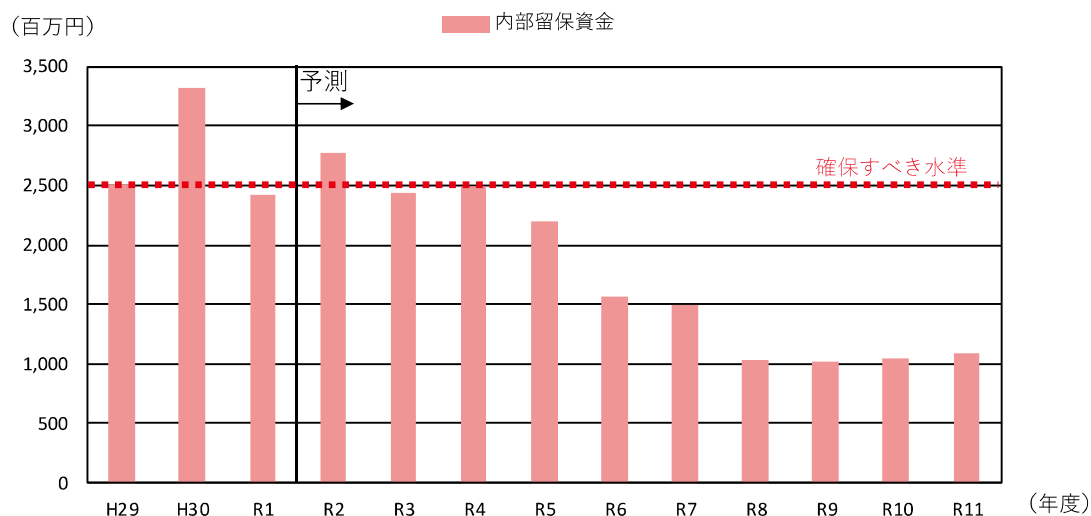
(単位:百万円)

	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11
第三次浄水場整備事業費	162	-	-	-	-	-	-	-	-	-
配水管布設費	126	180	188	185	185	186	185	186	186	186
配水管改良費	2,024	1,883	1,909	1,909	1,909	1,909	2,067	2,067	2,225	2,225
新営改築費	95	131	221	470	695	530	580	437	80	98
量水器費	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
その他	4	3	4	2	2	2	3	3	2	2
建設改良費 計	2,425	2,211	2,336	2,580	2,806	2,640	2,849	2,705	2,507	2,524

※四捨五入しているため、内訳と合計が異なる場合がある。

●内部留保資金の見通し

内部留保資金とは、企業の内部に留保される資金のことをいい、将来の施設・設備等の更新財源として活用します。水道事業では、災害に対する費用として、確保すべき水準を25億円以上に設定しています。現状の企業債充当、水道料金収入条件では、内部留保資金の減少が見込まれます。



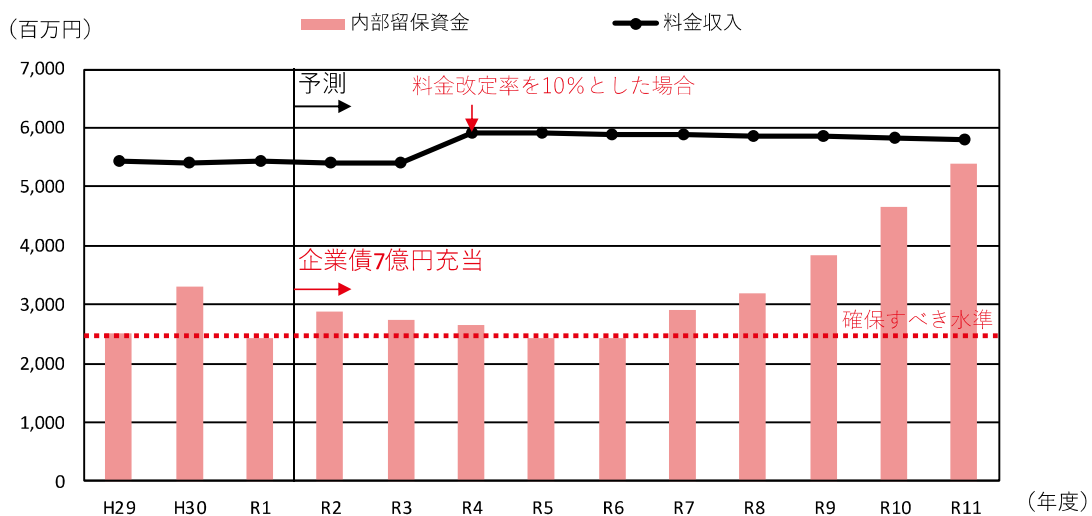
●財源見直し後の料金収入及び内部留保資金の見通し

水道事業については、現状の料金水準では、料金回収率が100%に達していない年度が多く、内部留保資金についても確保すべき水準を下回ることが見込まれています。この状況は、給水に係る費用を水道料金収入で賄うことができず、災害などが発生した場合に事業の継続が困難になることも想定される状態であるため、改善を図る必要があります。

本経営戦略では、事業規模が類似する団体と同程度の料金回収率とするため、料金改定率を10%に設定しています。また、内部留保資金を確保するためには料金改定だけでは不足することから、企業債による資金調達額を年間7億円へ増額しています。これらを行うことで収入と支出が均衡するよう試算した投資・財政計画を策定しました。

このことにより、計画期間内に必要な投資を見込んだ上で独立採算制を維持し、内部留保資金の確保すべき水準を下回らない見通しとなります。

なお、実際に料金水準を見直す際には、決算状況等を踏まえて料金体系を精査し、上下水道事業経営審議会に諮った上で、改定の可否を含めた適正な料金水準のあり方について、慎重に協議を進めることとします。



<下水道事業>

●投資計画

投資の目標を達成するための事業費をはじめ、主な建設改良費について今後10年間の事業費を見込んだ投資計画を示します。

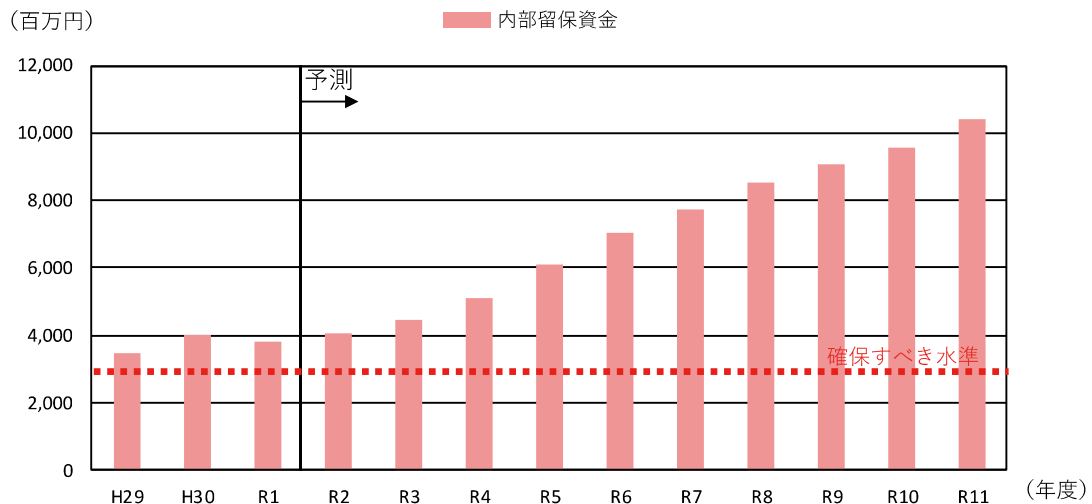
(単位:百万円)

	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11
公共下水道施設拡張費	863	629	905	507	463	584	349	329	329	329
公共下水道施設改良費	1,488	1,641	844	964	1,025	1,088	1,125	1,571	1,632	1,264
流域下水道費	257	240	279	357	357	357	357	357	357	357
固定資産購入費	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0
建設改良費 計	2,618	2,511	2,028	1,828	1,846	2,029	1,832	2,258	2,319	1,951

※四捨五入しているため、内訳と合計が異なる場合がある。

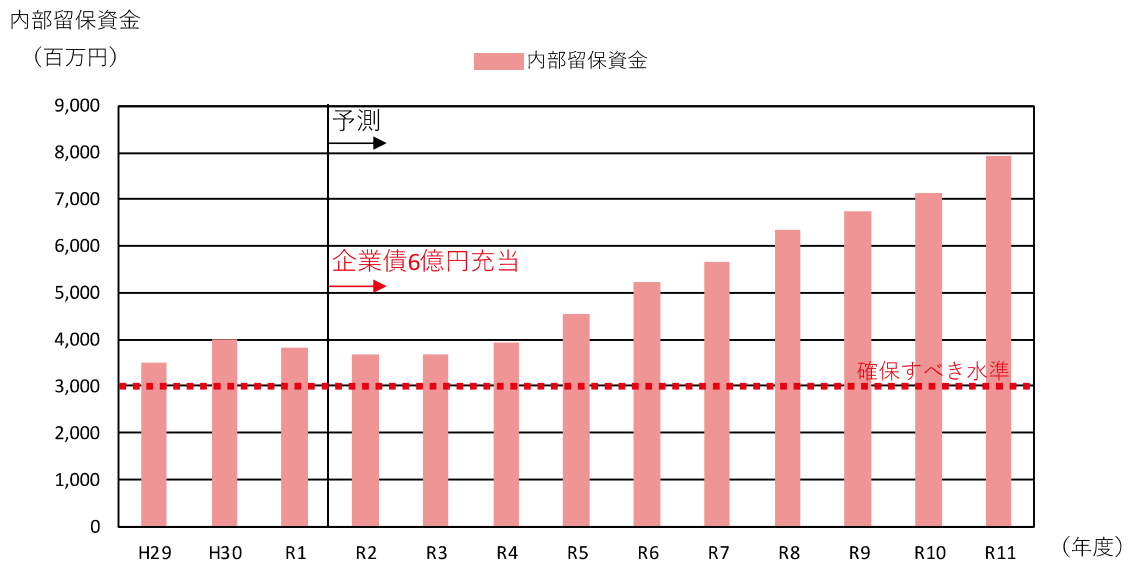
●内部留保資金の見通し

下水道事業では、災害に対する費用として、内部留保資金の確保すべき水準を30億円以上に設定しています。現状の企業債充当、下水道使用料収入条件で、将来にわたって内部留保資金は増加傾向にあり、確保すべき水準を上回っています。



●財源見直し後の内部留保資金の見通し

下水道事業については、現状の使用料水準で経費回収率が100%を超え、事業規模が類似する団体と同程度となっており、汚水処理に要する経費を使用料収入で賄うことができます。また、内部留保資金が増加傾向にあることから、令和2年度以降の新規の企業債借入を6億円に抑えたものとして、収入と支出が均衡するよう試算した投資・財政計画を策定しました。



第6章 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

●進捗管理（モニタリング）

川越市上下水道ビジョンの進行管理を踏まえ、投資の目標及び財源の目標に沿った計画の進捗状況の確認と評価・検証を毎年度行います。

●計画見直し（ローリング）

計画見直しに当たっては、進捗管理を踏まえ、計画の目標値と実績値の乖離状況について検証を行い、5年以内に計画の見直しを行います。





市の鳥
雁（かり）



市の花
山吹（やまぶき）



市の木
かし



川越市シンボルマーク

川越市上下水道事業経営戦略(概要版)

令和2年3月発行

川越市上下水道局 総務企画課

〒350-0054 川越市三久保町20番地10

TEL:049-223-3061

MAIL:somukikaku@city.kawagoe.saitama.jp

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

